

## かさねの色目の花あそび No.42

### 【色目】 枯野 <表：黄 裏：淡青>

冬の枯野。つまり、草木が霜や雪によって枯れていく、荒涼とした原野を表現した色目。

花材は薄青のテマリソウ(丸くないのは丸くなる前か、品種違いか不明)と、くすんだ黄色のミニバラ。テマリソウは、



マリモに似た色と形の花。とはいえこの緑のふわふわボールは、正確にはお花ではなく、花卉・雄しべ・雌しべが変異したもので、花序全体の基部を包む総苞です。最近人気のこのテマリソウは、ビジョナデシコ（ヒゲナデシコ、アメリカナデシコとも）の改良品種だそうですよ。

## かさねの色目の花あそび No.43

### 【色目】 黄朽葉 <表：朽葉 裏：朽葉>

秋の色目に①「朽葉」があり、この系統には②「青朽葉」③「赤朽葉」、そしてこの④「黄朽葉」がある。

①「朽葉」はこれらの基準となるもので、濃紅と濃黄の組み合わせである。で、②「青朽葉」(No.34 でアップ済)は緑味を帯びた朽葉で、色の組み合わせは経青緯黄と青。表に裏の青(緑)



がかすかに影響を与え、いわゆる緑系の萌黄色っぽい感じになる、というわけだ。③「赤朽葉」は、晩秋の頃の赤く色づいた朽葉を表現しており、経紅緯洗黄と黄。表の経紅緯洗黄の“洗黄”の意味は分からないが、①「朽葉」の濃紅より深いオレンジ色に近く、裏も①「朽葉」の濃黄ではなく単なる黄なので、①「朽葉」に似ているものの、それよりは華やかになる。

そして、この④「黄朽葉」は、晩秋の黄ばんだ朽葉の色を表したもの。着用時期も秋末冬初となっている——あ～、書いていて疲れた！ なんと細やかな観察に基づく色目の違いであることか。着用時期も微妙にズラれている。また、織物としては色味の微妙な変化もあるらしい。



この④「黄朽葉」の花材は、深くて、くすんだというかマットなというか、ちょっと暗めのオレンジ色のバラ2輪。同じ花で、あしからず。左は、グリーンを加え、小さいけれど花いけらしく3パターン。